

ニュース文聴解における予測能力

——テ形接続を中心とした日本語母語話者と日本語学習者との比較——

松浦恵津子

要 旨

日本語母語話者と日本語学習者の予測能力の一端を明らかにするために、テレビニュース文をテ形接続まで聞かせて後続部分を予測させるという調査をおこなった。テ形接続の後続部分を予測するには、前件の意味内容を理解してテ形接続の用法を予測し、言語外の一般的な知識を用いなければならない。また、先行文脈との関連やニュース文という性格・制約も考慮に入れなければならない。調査の結果、日本語母語話者はかなりの確度で予測をおこなっていることがわかった。一方学習者の場合は、前件の主語が明示されていなかったり意味の難しいと思われる語彙が使われていたりすると、予測がうまくいかないことがあった。

【キーワード】 ニュース文 聴解 テ形接続 予測能力

0. はじめに

予測能力について寺村(1987:57)は「聴いた瞬間にその聴いた部分を理解するだけでなく、その後どのような語の連なりが来るかをも瞬間に予測する能力」といっている。また「ネイティブスピーカーはそれほど注意を集中させなくても話しの流れについていくことができるが、外国人は、少なくともはじめのうちはなかなかそうはいかない」(p. 57)と述べ、これは予測能力に関係があるといっている。予測どおりのものが次にくれば、そうでない場合に比べて理解に要する集中力の負担が少なくすむだろうし、不明瞭な聞こえ方であっても推測によってその語と認識できる可能性も高くなるだろう。では、日本語母語話者(以下日本語話者)はどの程度まで予測することが可能なのだろうか。日本語学習者(以下学習者)の場合はどうだろうか。また、予測能力にはどのような要素がかかわっているのだろうか。本稿は、日本語母語話者と日本語学習者がテレビニュース文の聴解に際して、どのような予測をおこなうことができるのか、予測にはどのような要素がかかわっているのか、予測能力の一端を明らかにするためにおこなった調査の報告である。

1. 研究の目的

テレビニュース文の特徴の一つに、長文が多いということがあげられる。これは、連体修飾節・テ形や連用形による接続の多用に関係している。(注1)本研究では、テレビニュース文の長文の要因の1つであるテ形接続をとりあげる。テ形接続の前件を聞いて後件の内容を予測するという内容予測に焦点をあてて、日本語話者と学習者による予測の比較をおこない、予測にどのような要素がかかわっているのかを分析する。

2. 調査の概要および評価

2.1 調査の方法

調査には、NHK総合テレビ午後7時のニュースの音声だけをそのまま用いた。テ形接続を含む文をテ形まで聞かせ、後続部分を予測して書いてもらった。先立つ1文または2文とともに聞かせたものもある。また、予測のてがかりとなった語句や内容、なぜそのような予測をしたのかの理由も書いてもらった。調査に用いたニュース文と予測回答にどのようなものがあったかについては、ニュース文7・3・5は「3. 結果と考察」に、その他のニュースは本稿末の【資料】に示してある。テ形接続の用法でみると、継起関係2（ニュース文1・2）、手段・方法2（ニュース文3・4）、因果関係2（ニュース文5・6）、後件が結果をあらわしているもの1（ニュース文7）、前件が後件述語の意味上の直接対象の様態をあらわしているもの1（ニュース文8）の計8つである。

2.2 被験者

調査の対象となった日本語話者は、18歳（大学生）から40歳代の27人。学習者は20歳代～30歳代の留学生で、日本の大学に学部生、大学院生、研究生として籍をおく者27人。学習者のうち、大学院生は14人（修士課程7人、博士課程7人）であった。

2.3 評価

ニュース原文の内容に即してどの程度予測できたかをみるために、予測文を次のA～Eの5段階に分けた。内容を中心とした評価である。文体や文法的な適格性については、原則として評価の基準からはずした。また、テ形はテンス・ムードのかたちをもたず、後件の述語に依存している。予測文によってはテンスにばらつきが見られるものがあり、文脈中にテンスを決定するてがかりがない場合は、テンスについても評価の基準からはずした。さらに、「経費が

増えて⇒予算が不足する見通しが強まりました」の下線部のように、テ形接続後件の範囲外についても評価の対象としていない。評定者は筆者と、日本語・日本語教育を専攻する博士課程在籍の学生2人の計3人である。

- A：原文と同じ内容を含むもの。使用する語が違っていてもよい。
- B：原文と内容は異なるが、前件と後件との内容的なつながりがニュース文として成立するもの。
- C：前件述語と後件との内容的なつながりは理解できるが、ニュース文として不適切なもの。あるいは文脈から見て不適切なもの。
- D：内容的に前件と後件とのつながりに無理があるもの。
- E：テストの主旨を理解していないもの、無解答のもの。

3. 結果と考察

評価A～Eを5～1の点数に置きかえて平均点を出し、結果をグラフであらわすと次のようになる。(注2)

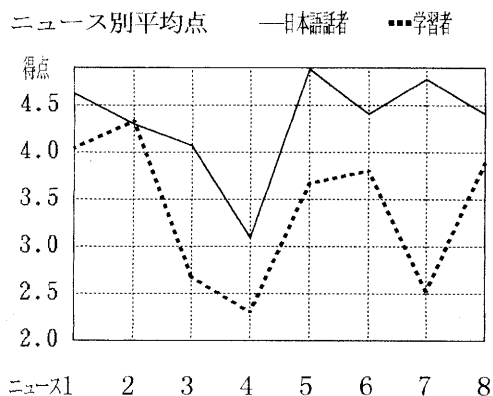


図1

ニュース別 日本語話者と学習者の平均点の差

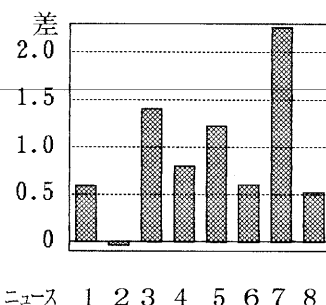


図2

図1をみると、日本語話者は、テ形接続の用法別では特徴がみられない。学習者は、テ形接続が継起関係をあらわすニュース文1・2（ニュース文については本稿末の【資料】参照）の平均点がよく、手段・方法をあらわすニュース文3・4は平均点が低かった。

ニュース文2は、日本語話者と学習者とでほとんど差がみられなかった。ニュース文2は、予測部分の内容が先行文脈で述べられていること、予定を述べる単純な継起関係であることなどから、他のニュースに比べて学習者にとって

予測しやすかったと考えられる。ニュース文4は日本語話者、学習者ともに平均点が低かった。「政治献金を出して⇒政治力をもつ」という原文であるが、後件に「依頼する」といった内容やもっと具体的な内容を予測したものが多かった。

図2をみると、日本語話者と学習者とで平均点に差のみられたのは、順にニュース文7・3・5であった。次に、これらのニュースについて詳しくみていく。

① ニュース文7について

〔ニュース文7〕大和銀行ニューヨーク支店で起きた巨額の損失事件の経営責任をとって ⇒ 会長と頭取が辞任を表明しました。 (⇒以下の下線部を予測)

日本語話者の予測：A 25 B 0 C 1 D 0 E 1 (A～Eは評価)

学習者の予測：A 5 B 1 C 1 D 16 E 4 数字は人数、以下同)

A～Cの予測は、後続部分を聞かなくても「責任をとって」は「責任をとった結果(何かをする)」の意味に解釈していた。そして、Aの予測をおこなったものは「経営責任のとり方⇒辞職」というスキーマ(註3)に適合させて予測をしていた。前件に主語がないが、「経営責任をとって」から前件述語の主語は銀行のトップ・幹部であることを理解し、トップ・幹部に相当する主語を後件に入れてAの予測をしていた。予測のてがかりとして「責任をとって」の部分あげている者が多かった。

B「経営者が自殺しました。」は学習者の予測である。これは、「経営責任をとって」から主語は経営者で、テ形接続の用法は原文と同じだと解釈しているが、「経営責任のとり方⇒辞職」というスキーマからの予測ではなかった。

C「大和銀行はアメリカから撤退することになりました。」という予測をした者は、日本語話者、学習者各1人ずついた。「経営責任をとって」の主語が銀行組織全体であると解釈している予測文である。この解釈もありうるが、だれに対して責任をとるのかという点でA・Bと異なっている。「経営責任をとる」は、会社や株主に対して責任をとると考えるのが一般的である。このCの予測文ではその点が不明確であり、あえていえばアメリカに対してである。

D「アメリカ政府が営業停止を大和銀行に命じました」

「日本の銀行や日本政府に対する批判の声が高まっています。」

「全容を調査中です」

は学習者による予測であるが、Dは「経営責任をとって」の本来の主語とは別の主語をたてて予測をしているものが多かった。Dのような予測をおこなったのは、「経営責任をとって」の意味やその主体・テ形接続の用法の理解が不十分だった可能性が考えられる。

以上をまとめると、ニュース7の妥当な予測には、次のような要素がかかわっている。

- ・前件の意味内容を理解すること
- ・「経営責任をとって」の主体を理解すること
- ・「経営責任をとって」は結果をあらわすテ形接続の用法であると理解すること
- ・「経営責任のとり方⇒辞任」というスキーマを適用して予測すること

② ニュース文3について

〔ニュース文3〕多額の不良債権を抱えて経営難に陥っている東京の二つの信用組合を吸収するために日銀と民間の金融機関が共同で出資をして ⇒ 新しい銀行を設立することになりました。

日本語話者の予測：A 8 B 16 C 1 D 1 E 1

学習者の予測：A 1 B 6 C 7 D 9 E 4

日本語話者、学習者によるAの予測文には次のようなものがあった。

A(a)「新たな金融機関を設立するとの計画が発表されました。」

(b)「新しい会社を設立することになりました。」

(c)「救済のための機関を設立することになりました。」

(d)「債券処理のための銀行が設立されることになりました。」

ニュース3は、「吸収するために(……て)——する」という構文である。目的をあらわす「～ために」や意志動詞句「出資をして」の意味内容から手段・方法をあらわすテ形接続の用法であると予測できる(注4)。そして、「吸収するため⇒その主体組織の創設」というスキーマを適用して、「——する」の部分にはその組織の創設という内容が予測されうる。A(d)は、前件とは別の主語を後件にたてている。また、「設立される」は受け身で無意志的である。テ形接続が手段・方法をあらわす用法であることを考えると文法的な適格性が低くなっているが、内容面からAとした。

日本語話者、学習者によるBの予測文には次のようなものがあった。

B(a)「負債の返還にあたることとなりました。」

- (b)「これら経営の行き詰まった銀行のたてなおしを計ることになりました。
- (c)「救済をはかることが、都議会で決まりました。」
- (d)「不良債券をとりあえず処理し、その後改めて事態の解決へと取り組む予定です。」

Bは、直前部分を主ながかりにして予測をおこなったと考えられる。「共同で出資⇒負債処理、たてなおしを計る、救済」というスキーマを適用しているのだろう。しかし、「吸収するために」の部分と直接つながらない。長文であることや音声言語のため構文がつかみにくく、「吸収」ということが見すごされてしまったためと考えられる。あるいは、B(d)のように吸収の前段階として不良債券の処理などをおこなうという意味で予測をおこなっているのかもしれない。B(a)の内容を予測している者の中に、てがかりとして「このニュースは前に聞いたことがある」をあげている者がいたが、原文と同じ内容の予測につながっているわけではなかった。

Cの予測文には、次のようなものがあった。

- C(a) (日本語話者、学習者)「調査しているところです。」
- (b) (学習者)「処理する」
- (c) (学習者)「解決することになりそうです」

Cは、Bと同様「吸収するために」の部分と直接つながらない。「共同で出資をして調査する、処理する、解決する」という内容はありうるが、何を調査等するのか具体的な内容をあらわす語がそえられるはずである。

Dの予測文には、次のようなものがあった。

- D(a) (学習者)「信用組合の存立問題について話し合うことにしました」
- (b) (学習者)「協議する」
- (c) (学習者)「日本の経済を助け合うとしている」
- (d) (日本語話者)「不正を行っていたことがわかりました。」

Dは、「共同で出資をして」のあとには「話し合う」はこないし、その他のものも内容的につながらない。

以上をまとめると、ニュース文3の妥当な予測には、次のような要素がかかわっている。

- ・前件の意味内容を理解すること
- ・目的をあらわす「～ために」と意志動詞句「出資をして」の意味内容から、手段・方法をあらわすテ形接続であると予測すること

- ・「出資をして」のあとには、出資をして行う具体的な行為や出資の対象が続くことを予測すること（すなわち、後件の主語は前件の主語と同じである）
- ・「吸収するため⇒その主体組織の創設」というスキーマを適用して予測すること

③ ニュース文5について

〔ニュース文5〕 上場企業の中間決算の発表がほぼ出揃いました。また、先月株式を上場しましたJT、日本たばこ産業の中間決算も発表されました。それによりますと、半年間の売上は、外国たばこにおされて ⇒ 1兆3724億円と、去年の中間期よりも0.5%減少し、中間期としては5年ぶりの減収となりました。（しかし、経常利益のほうは、原料となります輸入葉たばこの価格が値下がりをしたため、668億円と去年の中間期よりも7.7%増益となりました。）

日本語話者の予測：A 26 B 0 C 0 D 1 E 0

学習者の予測：A 14 B 1 C 1 D 11 E 0

「減少した」「伸び悩んだ」等が書かれているものはAとした。日本語話者は、直前の「(外国たばこに) おされて」をてがかりとしてあげているものが多かった。前件述語が受け身で無意志的であり、このテ形接続は因果関係をあらわす用法である可能性が高い(註5)。「売上が何かにおされる」ならその結果は「減少する」という、文化的な違いなどが影響しないいわば論理的な関係である。意味内容・テ形接続の用法・論理的な関係から「伸び悩んだ」「低迷した」等を予測できる。さらに、予測部分の後続文の内容あるいは何か対比される内容があるということまで予測した者は、日本人のA 26人中に14人いたのに対し、学習者は0人だった。これは「売上は」の「は」をてがかりとしてあげている者が多かった。テストニュース文の音調は「売上」にプロミネンスがあり、これを聞き取って対比される内容を予測した可能性もある。

BCDの予測内容には次のようなものがあった。

B (学習者)「例年の上昇率を下回りました」

C (学習者)「経常利益が5%低下しました」

D(a) (学習者)「良い結果がでました」

(b) (学習者)「やや回復した」

(c) (学習者)「上昇しました」

(d) (学習者)「輸入の総額が前年よりふえてきました」

(e) (学習者) 「株が下がりました」

(f) (日本語話者) 「2社とも頭うち状態にあるものの、〇〇のほうでは、□
□の影響もあってか売上の大幅な上昇がみられます。」

D(a)~(c)は逆の内容を予測している。また、CとD(d)(e)は、前件とは別の主語をたてて後件を予測している。しかし、前件「半年間の売上は外国たばこにおされる」はニュース文として意味内容が完結しているとはいえ、後件にも売上に関する内容が続く可能性が高く、後件の主語は前件の主語と同じであろうと予測できる。D(f)は「頭うち」という予測は妥当であるが、「2社」が不適切であり、また予測文の前半と後半の内容が矛盾している。

以上をまとめると、ニュース文5の妥当な予測には、次のような要素がかかわっている。

- ・前件の意味内容を理解すること
- ・前件述語が受け身で無意志的であることから、因果関係をあらわすテ形接続の用法であると予測すること
- ・前件と後件の主語が同じであることを予測すること
- ・「売上が(外国たばこに)おされる⇒(売上が)減少する」という論理的な関係のスキーマに適合させて予測すること

4. まとめ

ニュース文におけるテ形接続の後続部分を適切に予測するためには、次のような条件が必要であり、日本語話者はこれらの条件を満たしてかなりの確度で予測をおこなっていることがわかった。

言語知識に関して、

- ・前件部分の意味内容を理解すること
- ・前件に主語がない場合、前件述語の主語を理解すること
- ・先行文脈や前件の内容、前件述語の性格(意志的か無意志的か)から、テ形接続の用法を予測すること

言語外知識に関して、

- ・どのような事柄がニュースとして報道されうるのかを知っていること
- ・関連のあるスキーマをもち、それに適合させて後続部分の内容を予測すること

と

さらに、個々のニュースについての具体的な知識をもっている場合は、それ

を活用して予測をおこなうこともあるだろう。

予測能力というのは、言語内、言語外のさまざまな知識・能力が複雑に関連し集まった総合的な能力である。予測能力にかかわる要素を分析し、学習者に対し個々の要素についての指導をていねいに重ねていけば、総合的な能力として予測能力を向上させることができるだろう。そして、予測能力の活用により聴解力の伸長をはかることができると考えられる。

注1)『入門マスコミ言語論』(稲垣吉彦 1987:81)によると、1文の平均字数はNHKテレビニュース 74、新聞の論文記事 60、小説 30～40である。ほかに1文の平均文節数で比較したものでテレビニュース 22、日常談話 3.81、落語の地のしゃべり 7.42、講義 9.31というデータがあげられている。また、連体修飾節、連用形接続が多いということは桂(1995)でふれられている。今回全部で148文を調査したところ、テ形接続は約2文に1回の割合で使われていた。

注2) D・Eの差を設けるのは意味がないという考えからD・Eの得点を0として計算しても、ここでの結果に変わりはなかった。

注3) 「スキーマ」とは人間の知識体系をあらわす方法の1つで、ある一定の関係に基づく概念のまとまりをあらわすのに用いられる。

注4) テ形接続が手段・方法をあらわす場合は、通常前件、後件ともに意志動詞(句)を用いる。また、前件と後件は同一の動作主体をもつ。(遠藤 1982)

注5) テ形接続が因果関係をあらわす場合は、前件後件ともに無意志動詞(句)が使われることが多い(遠藤 1982)。

付記：本研究は、平成8年度科研費(一般研究B[06451159]代表：平田悦郎)の補助を得ておこなわれたものである。

参考文献

久野 暲(1973)『日本文法研究』大修館書店

森田良行(1980)『基礎日本語2』角川書店

遠藤裕子(1982)「接続助詞『て』の用法と意味」『音声・言語の研究』第2号
東京外国語大学音声学研究室

寺村秀夫(1987)「聴き取りにおける予測能力と文法知識」『日本語学』第6巻
第3号 明治書院

稲垣吉彦(1987)『入門マスコミ言語論』大修館書店

- 當作靖彦(1988)「聴解能力開発の方法と教材——聴解のプロセスを考慮した練習——」『日本語教育』64号 日本語教育学会
- 平田悦郎(1991)「ニュース文の構造と聴解の予測能力について」『お茶の水女子大学人文科学紀要』
- 市川保子(1993)「外国人日本語学習者の予測能力と文法知識」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』第8号
- 平田悦郎(1994)「日本語学習者のニュース文末部の聴解について」『お茶の水女子大学人文科学紀要』
- 桂千佳子(1995)「テレビニュース文の構造—文型抽出のてがかりとして—」『日本語教育学会秋季大会予稿集』
- 高橋太郎ほか(1995)『日本語の文法』

(お茶の水女子大学大学院人間文化研究科比較文化学専攻1年)

【資料】調査に用いたニュース文と予測回答の内容

予測の回答文はテ形接続の後件部分のみを示しその範囲外の文末は省略したものである。表記の誤りは正し、内容は要約したものもある。[]内はテ形接続の用法、⇒以下の下線部を予測させた。

ニュース文1 [継起関係] この工芸展は日本に古くから伝わる工芸技術を生かしながら現代の暮らしに即した新しい作品を作りだそうと文化庁などが毎年開いているものです。会場には全国各地から寄せられた2100点の作品の中から700点が選ばれて ⇒ 展示されています。

日本語話者の予測

評価A「展示されている」(22人)

- B「見に来た人々の目を楽しませている」(1)
- C「多くの人々が作品に見入っていた」(1) 「優秀賞を受けた」(2)
- D「11月末までこの展示会は浅草で開催される予定」(1)

学習者の予測

- A「展示されている・展示された」(19)
- B「集められてきた」(1)
- C (0)
- D「これらはすぐれた作品だ」(1) 「人々にいい作品をみせられてよい」(1)
「行われていく」(1) など

ニュース文2 [継起関係] 来月、日米首脳会談が行われることになりました。村山総理大臣は年明けの来月通常国会の招集前に、就任後初めてアメリカを訪問し、11

日にクリントン大統領との日米首脳会談を行うことになりました。五十嵐官房長官が記者会見で明らかにしたところによりますと、村山総理大臣は、来月の9日か10日に日本を発って、⇒ 11日にワシントンでクリントン大統領と日米首脳会談を行い、来月13日か14日に帰国する予定です。

日本語話者の予測

- A 「11日にクリントン大統領と会談する予定だ」(13)
- B 「翌日米国入りする」(※会談に触れていないものはBとした)(12)
- C 「〇〇日に米国入りした」(※文末が過去のものCとした)(1)
- D 「会談では沖縄基地の問題や円高問題などを話し合う予定」(1)

学習者の予測

- A 「11日に、アメリカの首都ワシントンで会談をする」(12)
- B 「訪米する」(13)
- C 「アメリカを訪問する旅を始めた」(1)
「再来月の下旬ぐらいに帰国する予定」(1)
- D (0)

ニュース文3 [手段・方法] 本文「3. 結果と考察」参照。

ニュース文4 [手段・方法] 石油連盟は自民党に対して年内に5000万円の政治献金を出すことを決めました。これは、石油連盟の建内会長が記者会見で明らかにしたもので、建内会長は、石油製品に対する税金をこれ以上上げないためにも政治献金を出して ⇒ 業界が政治力を持つことは必要だと述べました。

日本語話者の予測

- A 「自民党に働きかけることが必要だとしている」(4)
- B 「業界の事情について理解を求める」(※「依頼する」という内容はB)(5)
「意見を表明する必要がある」(1) 「国会で話し合ってもらおう」(1)
「その値上がり防止に効果的に用いる」(1)
- C 「価格の上昇をおさえる」(5) 「石油会社の負担を軽くする」(1)
- D 「国民の負担を軽減する」(1) 「自民党の減税政策を支持する」(1) など

学習者の予測

- A 「与党に圧力をかける」(2)
- B 「便宜を計ってもらおう」(1)
- C 「石油価格の安定化を図る」(5) 「解決する」(2)
- D 「石油税にまわす」(6) 「石油連盟がこれ以上石油税を上げない」(1) など

ニュース文5 [因果関係] 本文「3. 結果と考察」参照。

ニュース文6 [因果関係] 平成8年に東京湾の臨海副都心で開かれる世界都市博覧会は不況で企業からの協力金などが十分に集まらないうえ、経費が増えて、⇒ およそ200億円の予算が不足する見通しが強まり、東京都がその分を追加して負担する方針を固めました。

日本語話者の予測

- A 「予算が不足する見通しである」(13)

- B 「中止される見通しである・中止されることになった」(6)
「開催には困難がともなう」(7)

C (0)

- D 「企業を圧迫している」(1)

学習者の予測

- A 「赤字になる見通しである」(4)
B 「中止することになった」(7) 「難航している」(10)
C 「東京都の負担が不可避になる」(1)
D 「日本の企業に就職するケースが増える」(1) 「企業の環境問題が増える」(1)
など

ニュース文7 [結果] 本文「3. 結果と考察」参照。

ニュース文8 [様態] 今年の5月東京都庁で郵便物が爆発した事件で警視庁はすでに地下鉄サリン事件などで起訴されているオウム真理教幹部の豊田亨被告を殺人未遂などの疑いで再逮捕しました。警視庁の調べによりますと豊田被告は昨夜逮捕された教団幹部の富永まさひろ容疑者らと共謀して今年5月東京都の青島知事や青島知事の家族を殺害する目的で郵便物に爆弾をしかけて ⇒ 郵送したとして殺人未遂などの疑いがもたれています。

日本語話者の予測

- A 「都庁の青島知事あてに送った疑いもたれている」(11)
B 「殺害をはかったとされている」(7)
「郵便物を爆発させた疑いをもたれている」(1)
「爆破させ、職員にけがを負わせた」(1)
「(爆弾をしかけて) いた疑いが持たれている・(爆弾をしかけて) いたことが明らかになった」(5) など

C (0)

D (0)

学習者の予測

- A 「都庁に送ったことがわかった」(13)
B 「やったと認めた」(2) 「職員を負傷させた」(1)
「(爆弾をしかけて) いたことが明らかになった」(3)
C 「被害者を殺したという犯行が明らかになった」(1)
D 「豊田被告に警察関係者を殺害する意志があった」(1) など